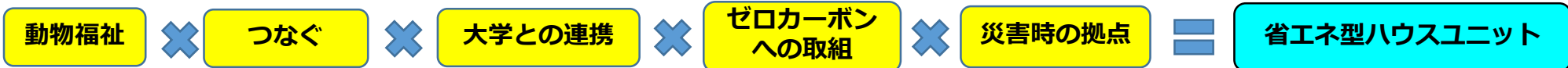


(仮称) 北海道動物愛護センター（基幹センター）の建設について

道では、令和6年度までに道内4カ所に動物愛護管理センターを順次配置することとし、本年4月から犬猫の引取りや譲渡などの業務を開始したところですが、犬猫の収容能力の向上や、災害等発生時における対応などを含めた、道内全体のセンター運営の総合調整を担う「基幹センター」を道央地区（酪農学園大学キャンパス内）に建設します。

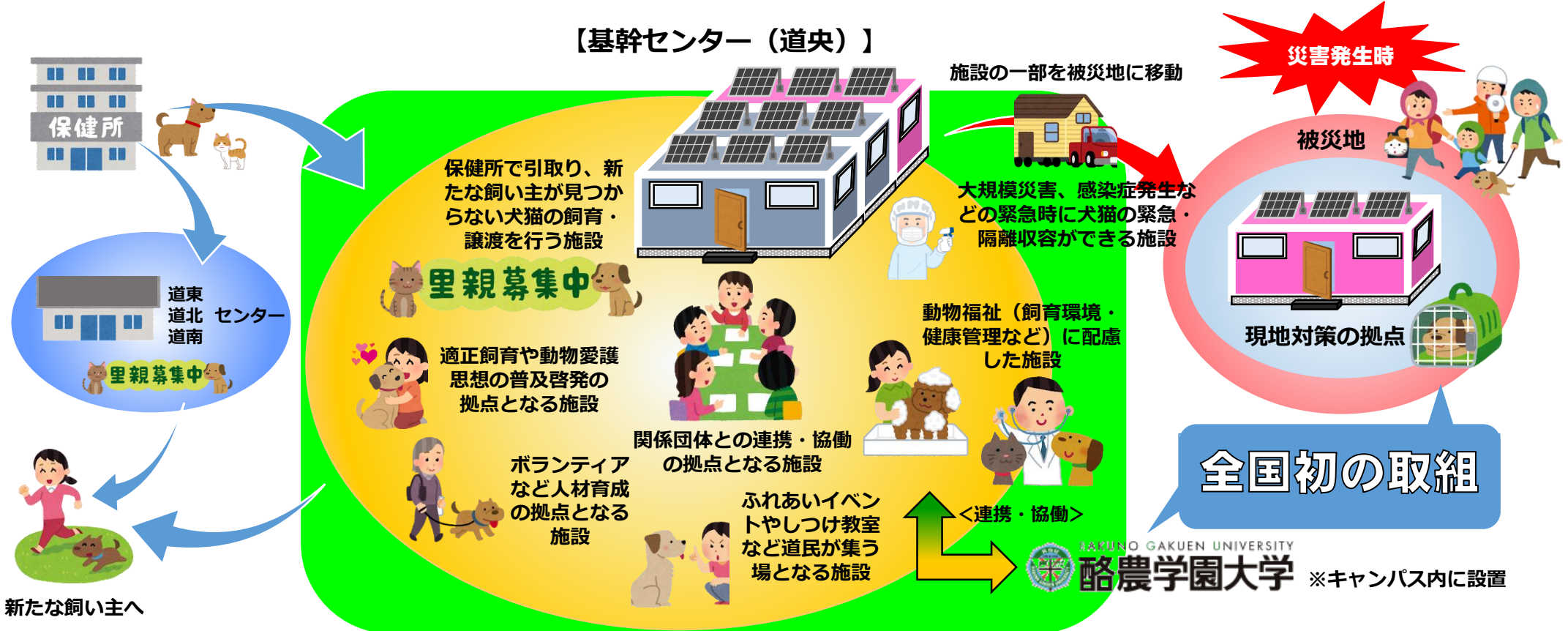


基幹センターの概要・目指す姿 「北海道における動物愛護管理業務のあり方」（令和3年10月）をふまえ



- 高気密・高断熱であり、太陽光発電、蓄電システムにより二酸化炭素の排出を抑え、停電等緊急時にはエネルギーを自立的に供給できる「ハウスユニット」を導入します。このユニットを複数連結させ、平時は通常のセンターとして使用しますが、災害発生時はユニットの一部を切り離して被災地へ移設し、現地の電力供給がストップした状況でも、被災動物の保護・収容などの対策拠点として機能します。
- 酪農学園大学キャンパス内にセンターを建設し、獣医療、動物福祉に関する連携・協働を図ります。
- 人と動物が共生する社会の実現に向け、様々な関係者や道民との環をつなぎ、動物の命をつなぐ活動拠点を築きます。

【基幹センター（道央）】



※整備費の一部は環境省二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（平時の脱炭素化と災害時の安心を実現するフェーズフリーの省CO2独立型施設支援事業）を活用しています。